

# 資格検定NEWS



11月19日

岡山市内：屋根で日向ぼっこする猫

## 井の中の「日本」

2017年11月19日 大阪本社版朝日新聞「天声人語」に次の文章があった。

日本の大学で准教授を務める英国人マーク・リバックさんが「日本に来て、とまどったことのひとつは、日本は『信号機のない横断歩道は車優先』ということだ。」と新聞に投稿したことに、次のデータを示し検証している。

今年8月から9月、日本自動車連盟(JAF)が全国94箇所を実態調査を行うと、渡る人がいる横断歩道で停止した車は1万251台のうち、わずか867台だった。全国日本交通心理学会の大田会長は「お上を意識して動く。そんな日本社会の特徴が出ているのではないか。」「信号機の明確な縛りには従うが、おとがめがなさそうな場合には緩みが出てしまう。自分たちの判断で安全をつくるのが苦手なのかもしれない。」

マークさんは言う。「母国の英国では、横断歩道に歩行者がいれば車は必ず止まる。歩行者優先が無理なら、『日本では横断歩道では車は止まりません。』と外国人に周知してほしい。」天声人語の筆者は「極めて合理的である。そして情けない話である。」

また、11月14日に、つくばエクスプレスで列車が定刻よりも「20秒」早く出発(早発)するミスが発生。これについて、公式サイトにお詫びが掲載された。このことに海外のメディアが反応した。海外、特に英国では鉄道がダイヤ通りに走らないのは珍しいことではないらしい。海外の人々には、わずか20秒の早発で、しかも乗客からの苦情はなかったにも関わらずお詫びを発表している様子は、日本人のある種の律儀さが、なんとも不思議な光景に見えたようだ。

これらのことを、皆さんはどのように思われるだろうか。